

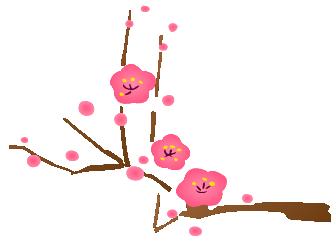
校長室通信



小国町立小国中学校

令和 5.2.2 (木) No32

文責 狹間卓史



「光の春」

2月4日は立春。暦の上では春を迎え、これから徐々に太陽の光が力強さを増してきます。本校の職員駐車場は校舎北側に位置するため先日の雪がまだ残っており、換気のために開けられた校舎窓からは極寒の冷気が吹き込んでくる今週でした。それでも窓から差し込む日差しと空の青さに、心なしか春が近づいていることを感じられるようになりました。

この立春から春分の日までの時期のことを「光の春」とも言うそうですが、この表現はロシアで使われていたものだそうです。北国の厳しい冬の寒さに耐える人々が、温かな春を待ちわびる思いが伝わる言葉です。

そのロシアはウクライナ侵攻から一年が過ぎ、世界中から厳しい目を向けられています。尊い命をどれだけ奪い、失えば気づくのか。力づくで自分の言い分を通そうとすることの愚かさの責任は自ら負う必要がありますが、人の命に見合う責任の取り方など私は知りません。

本校では昨年末から「総合的な学習の時間」の取組から、書き損じハガキや使い捨てカイロの提供の呼びかけが行われていました。世界のどこかでワクチンを待っている子どもたちと、極寒のウクライナで平穏の日々を待つ人々への連帯を示す取組です。そこに込められた本校生徒の真っ直ぐで温かな思いにも「光の春」を感じています。気づき、考え、行動する。その力の芽が確実に育ちつつあります。



【26日の昼休みの生徒と職員。元気一杯です。】



【30日のグラウンド 雪だるま3体が居残りです。】



【31日の職員駐車場の光景。凍り付いています。】

「特別なベンチ」



1月12日(木)、「公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金」から「阿蘇大観光の森」で育った杉の木を加工したベンチを寄贈いただきました。

この製作に携わったのは、熊本県立阿蘇中央高校グリーン環境科の生徒とのこと。実はこの製作者の中には、本校卒業生も含まれていました。ですから、本校にとっては格別に嬉しい寄贈品でした。現在は生徒昇降口に置いていますので授業参観時等の機会には是非ご覧ください。そして、座ってみられてください。



【生徒三人が余裕で座ることが出来ます】